

QUARTERLY REPORT OF JAPAN HEART FOUNDATION

No.228

心臓財団 季報

SEP.10, 2017



公益財団法人
日本心臓財団

〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1小田急第一生命ビル4階
●Tel 03-5324-0810 ●Fax 03-5324-0822
●e-mail : info@jhfr.or.jp ●URL : http://www.jhfr.or.jp

2017年 健康ハートの日

～皆様からのご支援で今年も盛況に開催することができました～

日本心臓財団では、8月10日が810(ハート)と読めることから、「健康ハートの日」と定め、全国各地でこの日を中心に健康イベントを開催・共催しています。

今年は東京では8月6日(日)、名古屋では8月10日(木)、豊橋、岐阜、京都では8月11日(祝)に開催されました。

各地のイベントの様子を、写真とともにご紹介します。

健康ハートの日2017(東京)に参加して

杉本 恒明(日本心臓財団顧問)

毎年、東京では8月10日の健康ハートの日に一番近い手前の日曜日に開催される。今年は、8月6日の開催だった。広島原爆投下の日でもある。朝、8時15分、ラジオから流れる声に従って、1分間の黙祷を捧げ、早くに逝った学友、恩師を偲ぶ。

幸いに台風はまだここまで来てはいないようだった。この日も私は終日、受付に坐った。ラジオNIKKEIのOさんや、日本心臓ペースメーカー友の会の皆さんもきてくれた。数か月前、友の会の副会長で、毎年顔を出してくれていたHさんが急逝されたのは淋しいことだった。

今回は231名の来場者があった。

今回の集客の功績のその1は、すわん君だった。日本循環器学会の禁煙推進学術ネットワークご自慢の「ゆるキャラ」である。一緒に写真を撮りたい子どもたち、大人たち、お年寄りたちで大人気だった。

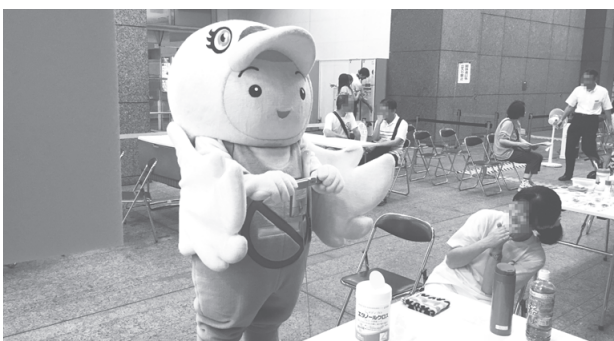
医療相談担当の上松瀬勝男先生も、スワンといえば、スワンガンツ・カテーテルの発明者として有名な、自分の

恩師の名である、と喜んでた。

功績のその2は配慮の行き届いた呼び込みであったといえる。平素はしとやかな財団事務局の女性たちが前回と同様に、大きな声を張り上げていたのは感心した。また、合間にプラカードをもって告知のために周辺を歩いてくれた。イケメンといわれた学会事務局の若い男性の呼び込みぶりにはなるほどと合点するところがあった。

印象のその1としては、途中に目通したアンケートの一部を紹介したい。もっとも人気があったのは動脈硬化度の測定だったが、片側だけの電極装着で測定可能に工夫されていて、これによって今回は170人の測定ができたという。次に喜ばれていたのは医療相談だったが、管理栄養士による栄養相談も喜ばれていた。平素は塩分制限といい、夏場は塩分補給といつかねあいが質問されていたようだった。

印象のその2として、評価したいのはAED講習会であった。インストラクターのお二人の女性が終始、きちんと



と正座して指導していたのには頭が下がる思いがあった。練習するほうも真剣だった。終わりまで講習を受けた方が20数人であったと聞いたが、これによって、それだけの数の生命が救われるのだ、という思いを新たにされた。

この隣にはハートナビという心臓模型が、心室細動を起こしたときの心臓の様子を再現していたが、ここに坐り込んで、話を聞く人も目立った。ハートナビを開発したプロフェッショナル・ドクターズ・ネットの二宮淳一先生、桑木綱一先生も、これを楽しみにしていられているらしい。

医療相談の医師団の構成は例年とまったく同じだった。上松瀬、大川眞一郎、羽田勝征の3先生と細田瑛一・徹先生父子が参加してくれた。

反省会での医師たちからの注文には、動脈硬化度は少し甘く評価してほしい、という要望があった。自分の実



年齢をかなり上回る数字が出ると、落ち込む方が多いのだそうだ。

今回は、日本循環器学会と共催にしたことで、循環器学会事務局の皆さんが大勢、参加してくれていたのは嬉しかった。次回から、「健康ハートの日フェア」はその詳細を学会と一緒に計画し、開催するようになるのであろう。

いつもと異なる特徴はネットの「twitter」の普及である。トランプ旋風の折から、twitterが話題になっている。本日のイベントは、すわん君の発信するtwitterにのって、この瞬間、すでに数千人の目に拡散しているのだそうである。

ともあれ、暑さを忘れるほどに楽しかった一日だった。反省会のビールも美味しかった。

ご協力いただいたフクダ電子、オムロンヘルスケア、協和企画、そして応援に駆けつけてくれた皆さんに心から感謝したい。



第18回「8月10日はハートの日」豊橋

今年のテーマは「命の食事～大切な人を病気から守るために今できること～」。メイン講演では南雲吉則先生(ナグモクリニック総院長)に、ご自身が実践されている健康法や食事法を非常にわかりやすい内容でお話いただきました。また、南雲先生と豊橋ハートセンターの渡邊正男先生、松原徹夫先生、鈴木孝彦院長の4名で「がん・脳卒中・



心臓病に勝つ食事」というテーマの座談会を行いました。

そして生活習慣病予防を目指したハート健康診断や循環器専門医による心臓病相談室、心肺蘇生講習のほか、そして今回からフットケアコーナーを設けました。第二の心臓と言われる足のケアを行うものです。健康診断には約650名、講演会には約1,100名の来場がありました。



第9回ハートの日 in 名古屋

今回はメインテーマを「あなたのそばで助かる命」として、医師による講演会やメディカルプロレスによる心肺蘇生講習が行われました。また、その後はトークショー

として歌手のあべ静江さんをお迎えし、メディカルプロレス代表の浅井富成先生と名古屋ハートセンター院長の大川育秀先生とでAED普及に関するトークショーが

ありました。恒例の元名古屋フィルハーモニー交響楽団の熱田敬一氏による「ハートコンサート」や西川右近先



生による日舞エクササイズ「NOSS」も大好評でした。約600名の来場者がありました。



第9回ハートの日 in GIFU

今年もメインテーマを「家族で心臓病を考える」と題し、子ども向けには検脈や大動脈弁手術のシミュレーションなどの体験学習や、血圧測定、聴診体験、カテーテル検査体験、薬剤体験、リハビリ体験などを実施し、子どもたちが医療や病気について考えるきっかけになるよう願いました。また、大人向けには運動教室、栄養教

室を実施し、これらもどちらも運動や食事を体験していただき好評でした。ハート講演会では、「運動がもたらすあなたの健康長寿」と題し、患者さんからの心臓リハビリ体験談や、名古屋大学の山田純生先生によるご講演、座談会などが開催されました。1,000名を越える来場者がありました。



第4回京都ハートの日

メルパルク京都で市民公開講座が行われ、康生会クリニックの健康運動指導士、今井 優先生による「心臓リハビリテーションについて」、武田病院の木下法之先生による「心臓血管病 現代の対策」の講演がありました。

また、「心臓病予防のために」と題し、まつばらクリニックの松原欣也先生、武田病院の榎田 出先生、朴 昌禧先生によるシンポジウムが行われました。約130名の来場者がありました。



2017年の健康ハートの日を前にした7月27日、日本心臓財団とエドワーズライフサイエンス社が秋田県とコラボレーションし、秋田県の食材を使った健康メニュー、ハートレシピを発表しました。そのプレスリリースより、秋田大学心臓血管外科学教授の山本浩史先生のご講演を紹介いたします。

なお、ハートレシピは日本心臓財団のホームページに掲載されています。

おいしい食事と心血管病は表裏一体？

～ハートレシピで心血管病予防～

山本 浩史 氏 (秋田大学心臓血管外科学教授)

世界の健康格差

人間の平均寿命に関する統計は、西欧で16世紀頃から始まったといわれています。教会の洗礼を受けた赤ちゃんの数や埋葬した数によって寿命が推定され、当時の平均寿命は35～40歳でした。

感染症の克服や上下水道の整備など公衆衛生の進歩を経て、戦後、さらに医療の発展などにより、急激に私たちの平均寿命は延びました。貧困国ではまだ平均寿命は低く、その対策は十分な栄養、公衆衛生、医療の充実等が挙げられますが、富裕国の平均寿命は現在ほぼ横ばいで、国民所得や医療費よりも、食事や飲酒、地理、喫煙、薬物依存、民族構成、国内での貧困格差などが平均寿命に影響しているといわれています。

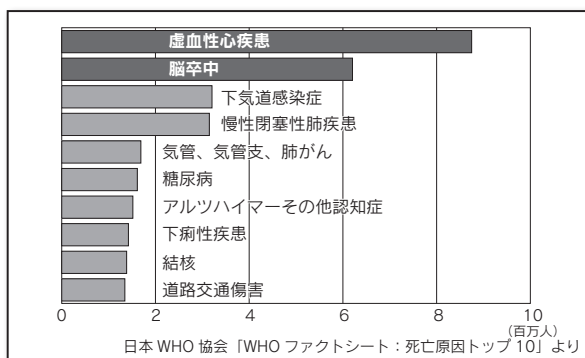


図1. 世界における死亡原因トップ10

男性順位	都道府県	平均寿命 (歳)	女性順位	都道府県	平均寿命 (歳)
	全国値	79.59		全国値	86.35
38	栃木	79.06	38	福島	86.05
39	山口	79.03	39	秋田	85.93
40	鳥取	79.01	39	大阪	85.93
41	大阪	78.99	41	群馬	85.91
42	高知	78.91	42	埼玉	85.88
43	長崎	78.88	43	岩手	85.86
44	福島	78.84	44	茨城	85.83
45	岩手	78.53	45	和歌山	85.69
46	秋田	78.22	46	栃木	85.66
47	青森	77.28	47	青森	85.34

表1. 平均寿命下位10府県(平成22年)

また、心血管病の死亡率も富裕国間ではここ50年間でどこも非常に減少していますが、世界における死亡原因は、虚血性心疾患が第1位、脳卒中が第2位となっており(図1)、やはりまだ、これらの疾患を克服することが世界の課題となっています。日本ではすべての臓器のがんを合わせた形でがんが死亡原因の第1位になっていますが、臓器別にみるならば、心臓病、脳卒中が多くなります。

日本の健康格差

次に日本国内の健康格差を見てみましょう(表1)。秋田県は、平成22年の平均寿命の統計で47都道府県中男性46位、女性39位と下位にあります。世界標準でみれば決して低い寿命ではありませんが、全国平均に比べると1歳以上の差があります。

死亡率が高いということは、医療能力(病気を治す力)より患者数・重症度(病気を生ずる因子)のほうが大きいということです(図2)。医療能力には、患者さんを診断する力、運搬する力(搬送能力)、そして治療する技量、その後の術後管理や看護、介護などが含まれますが、これらには限界があります。ですから、病気を生ずる因子を減らすほうに重点を置くという政策が最も重要になります。

秋田県には、美味しい食材がたくさんあります。お米もお酒も美味しく、またいぶりがっこのようなご飯が進む美味しい漬物もあります。納豆に砂糖をかけて食べるという習慣もあります(図3)。ですから、食塩消費量、砂糖消費量、酒類消費量が全国でも高い地域になっています。

その結果、高血圧や糖尿病、脂質異常などの生活習慣病リスクも高くなっております。さらに肥満の指標となるBMIの全国比較グラフ(図4)をみてみますと、やはり秋田県は男女とも高いところに位置しています。BMIの男女の数値は比較的関連しており、低い地域は

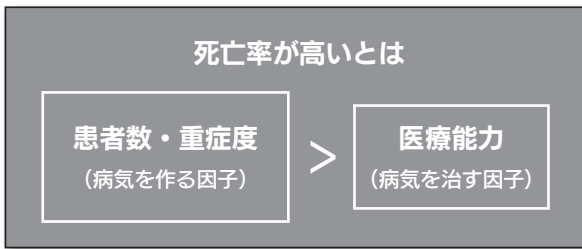


図2. 死亡率が高いとは

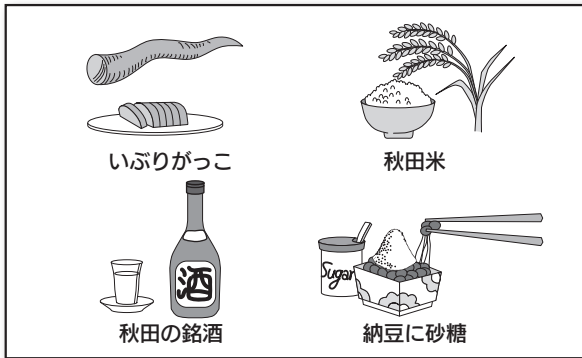


図3. 秋田県の飲食の幸せ

男女とも低く、高い地域は男女とも高い傾向があります。もちろんWHOの定義する肥満は30以上ですので、そこまで太っている人は日本全国でも約3%程度です。東北地方は肥満予備軍が多いと言えるでしょう。高血圧、糖尿病、脂質異常、肥満は、「死の四重奏」と呼ばれ、この4つが重なると心血管病を発症するリスクが高くなり、さらにここに喫煙が加わると、命に関わる状況になりやすいということになります。

美味しいものをたくさん食べる、多量の飲酒や喫煙、これらによって得られる幸せと、その結果として、救急搬送、緊急治療、それで治療できればよいのですが、医療レベルを超えた疾患であれば術後の寝たきりや命を落とすこともあり、こうした不幸の転機とは表裏一体ともいえます。こうしたことに注意する、意識することが病気の予防に重要です。

緊急重症疾患と医療能力の限界

心臓血管外科の最近の疾患別年間手術割合をみてみましょう(図5)。大動脈疾患(胸部・腹部)、虚血性心疾患、一部の弁膜症疾患は動脈硬化が非常に関係する疾患です。全国では、大動脈疾患と虚血性心疾患を合わせると半分を超えています。秋田は大動脈疾患が半分以上を占めますが、これに虚血性心疾患を加えますと7割近くが動脈硬化・高血圧に由来する疾患です。なかでも急性大動脈解離、大動脈瘤破裂、急性冠症候群、それに重症下肢虚血は緊急重症疾患です。

秋田県に多い大動脈解離は、血管の内側に亀裂が入ってもう一つ腔(解離腔)ができてしまう病気で激し

い痛みが生じます。さらに解離腔が破裂して心タンポナーデや出血性ショックを起こすと命に関わります。また解離腔が臓器への血流を塞いでしまうと臓器に血液が行かなくなり心筋梗塞や脳梗塞などを発症します。発症後、治療をしなければ二日間で半数が死亡する疾患です。

急性大動脈解離は寒い時期に多く起こる疾患です。そこで問題となるのが、秋田県など雪の多い東北地方特有の地理的要因です。最近は秋田県でも広い地域をカバーするドクターヘリが大活躍していますが、冬は天候が悪くて飛ぶことができないことが多くなります。その場合は救急車になりますが、秋田には地吹雪という現象が起こり、スピードを出して走ることができません。このような気象条件による搬送能力の限界が出てきます。さらに秋田県は非常に面積が広く、また農業が主産業のため土地を離れることができないうえに散在して住んでいます。これも搬送能力の限界を生みます。

では大都市ではどうかというと、重症患者さんの数が病院の収容能力を上回ることで、いわゆるたらい回し状態が生じています。大都市にしても地方にしても、医療能力には限界があります。早期発見や治療の進歩、など医療能力の向上を目指しても、やはり限界があります。

ですから、生活習慣を正して病気にならないようにする、病気の数を減らす、重症にならないようにすることが重要になります。今回のハートレシピは、おいしい食材を健康的に食べるレシピの提案になります。

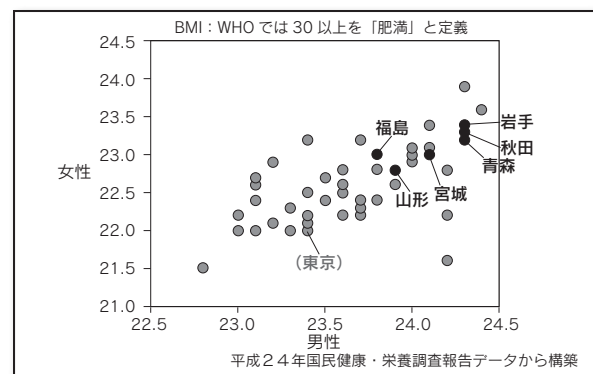


図4. BMIの全国比較

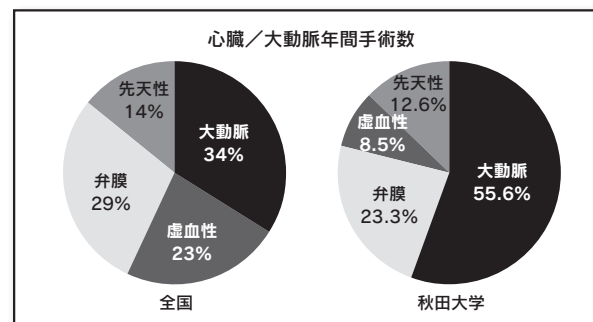


図5. 心臓血管外科の主要疾患別年間手術割合

平成29年度日本心臓財団研究奨励募集

心臓血管病(心臓病、脳卒中、高血圧、動脈硬化症等)の成因、治療あるいは予防に関する独創的研究に対し実施します。

1. 研究奨励金および応募資格

(1) A 第43回日本心臓財団研究奨励

1件200万円を10件。

わが国に在住し、心臓血管病の基礎、臨床または予防に携わる40歳未満の研究者(1977年4月1日以降に生まれた者)。

B 第8回日本心臓財団入澤 宏・彩記念研究奨励

1件100万円を3件。

Aの応募対象者のうち基礎研究室に所属する研究者。

C 第8回日本心臓財団入澤 宏・彩記念女性研究奨励

100万円を1件。

Aの応募対象者のうち女性研究者。

(2) 第5回日本心臓財団拡張型心筋症治療開発研究助成(ほのかちゃん基金)

1件200万円を2件。

わが国に在住し、拡張型心筋症の基礎、臨床または予防に携わる研究者。

なお、応募はひとり1件に限ります。研究奨励金を受けた者は、同一の研究奨励に再度応募できません。

2. 応募方法・期間

2017年9月1日～10月15日(消印有効)

当財団ホームページより応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入して日本心臓財団事務局宛にメールと郵送にてお送りください。

日本心臓財団・バイエル薬品 第31回海外留学助成募集

日本心臓財団では日本循環器学会の後援のもとにバイエル薬品株式会社の協力を得て、循環器領域の少壮研究者が海外の研究機関等に留学し、独創性のある研究や萌芽的な研究を行う場合の渡航費並びに滞在費の一部を補助するために海外留学助成を実施します。

1. 助成対象

心臓病・脳卒中・高血圧・動脈硬化症等の循環器領域の研究に携わる研究者

2. 助成額

1件300万円とし原則として10件

3. 応募資格

次の事項のすべてに適合する者

- 1) 初めての海外留学であること
- 2) 40歳未満(1978年4月1日以降生まれ)で日本在住であること

3) 1年以上留学し、帰国後日本の学術振興に寄与すること

4) 留学先研究機関の責任者または受入者の承諾を得ていること

5) 一定の研究業績を有すること

6) 2018年4月1日～2019年3月31日の間に出発の予定であること

なお、選考決定後、留学前に留学先を変更した場合や期間内に出発の予定が決まらない場合は、取消することもあります。

4. 応募方法・期間

2017年10月1日～11月30日(消印有効)

当財団ホームページより応募要項をダウンロードし、必要事項を記入して事務局宛にメールと郵送にてお送りください。

ACジャパンとの共同キャンペーン「謙信と信玄、検診の進言」

日本心臓財団では、ACジャパンと共同で、2017年7月より1年間、高齢者の心不全の原因となる弁膜症の早期発見を啓発するテレビ・ラジオCM、新聞広告を展開しています。今回、ポスターを同封しましたので、ご活用ください。

高齢化や動脈硬化などに由来する心臓の病気が増えています。放置すると心不全の原因となり、早期発見と適切なタイミングでの治療が重要です。疲れやすさや息切れを感じたら、年のせいだと思わずに病院で受診しましょう。

最近どうも「息切れ」が、と感じたら、それ、年のせいではなく、弁膜症かも。

日本心臓財団
http://www.jhf.or.jp

教室(医局)・病院(医院)・医師会賛助会員の皆様

日本心臓財団と日本循環器学会が共同発行している月刊誌「心臓」の発行と当財団の運営を支えていただいている賛助会員の皆様を感謝の意を表して掲載させていただきます。

教室(医局)賛助会員

北海道大学循環器内科	慶應義塾大学循環器内科	京都大学循環器内科
札幌医科大学循環器内科	東京医科大学循環器内科	関西医科大学循環器内科
東北大学循環器内科	東京医科大学八王子医療センター循環器内科	奈良県立医科大学第1内科
山形大学第一内科	東京慈恵会医科大学循環器内科	大阪大学循環器内科
福島県立医科大学循環器内科	東京慈恵会医科大学葛飾医療センター循環器内科	近畿大学奈良病院循環器内科
筑波大学循環器内科	東京女子医科大学東医療センター心臓血管診療部	神戸大学循環器内科
自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科	昭和大学藤が丘病院循環器内科	島根大学循環器内科
獨協医科大学心臓・血管内科	東邦大学医療センター大橋病院循環器内科	広島大学循環器内科
獨協医科大学越谷病院循環器内科	杏林大学循環器内科	山口大学循環器内科
群馬大学循環器内科	横浜市立大学循環器内科	徳島大学循環器内科
千葉大学循環器内科	聖マリアンナ医科大学循環器内科	愛媛大学循環器内科
埼玉医科大学国際医療センター心臓内科	北里大学循環器内科	高知大学老年病・循環器・神経内科
日本大学循環器内科	東海大学循環器内科	九州大学循環器内科
駿河台日本大学病院循環器内科	東海大学付属八王子病院循環器内科	福岡大学心臓血管内科
帝京大学循環器内科	新潟大学循環器内科	福岡大学筑紫病院循環器内科
帝京大学附属溝口病院循環器内科	金沢大学循環器内科	佐賀大学循環器内科
帝京大学ちば総合医療センター循環器内科	金沢大学先進総合外科	長崎大学循環器内科
日本医科大学循環器内科	金沢医科大学循環器内科	熊本大学循環器内科
日本医科大学多摩永山病院循環器内科	信州大学循環器内科	大分大学循環器内科
日本医科大学千葉北総病院循環器内科	浜松医科大学循環器内科	宮崎大学循環器内科
東京大学循環器内科	名古屋大学循環器内科	鹿児島大学心臓血管内科
順天堂大学循環器内科	三重大学循環器内科	
東京医科歯科大学循環器内科	滋賀医科大学呼吸循環器内科	

病院(医院)賛助会員

江別市立病院	済生会富山病院	美祢市立病院
北海道大野病院	富山赤十字病院	済生会今治病院
北海道社会事業協会帯広病院	金沢医療センター	今治第一病院
札幌中央病院	抱生会丸の内病院	喜多医師会病院
札幌心臓血管クリニック	岐阜総合医療センター	近森会近森病院
仙台厚生病院	澄心会岐阜ハートセンター	済生会福岡総合病院
仙台赤十字病院	慈朋会澤田病院	杉循環器内科病院
本荘第一病院	東海中央病院	原三信病院
三友堂病院	松波総合病院	福岡市医師会成人病センター
福島赤十字病院	聖隷浜松病院	福岡新水巻病院
国際医療福祉大学病院	市立湖西病院	小倉記念病院
新小山市民病院	澄心会名古屋ハートセンター	春陽会うえむら病院
茨城県立中央病院	名古屋第二赤十字病院	新小文字病院
常陸大宮済生会病院	藤田保健衛生大学坂文種報徳會	熊本赤十字病院
慶友会慶友整形外科病院	大台厚生病院	済生会熊本病院
千栄会高瀬クリニック	永井病院	大分岡病院
田口会新橋病院	伊勢赤十字病院	都城市郡医師会病院
博仁会第一病院	近江八幡市立総合医療センター	青仁会池田病院
輝城会沼田脳神経外科循環器科病院	亀岡病院	鹿児島県立北薩病院
鶴谷病院	京都桂病院	鹿児島市医師会病院
北里大学メディカルセンター	京都第一赤十字病院循環器内科	鹿児島生協病院
埼玉県立循環器・呼吸器病センター	洛西ニュータウン病院	かりゆし会ハートライフ病院
さいたま市民医療センター	大阪府三島救命救急センター	翔南会翔南病院
深谷赤十字病院	りんくう総合医療センター	豊見城中央病院
関越病院	小松病院	
東葛病院	北播磨総合医療センター	
板橋中央総合病院	神戸アドベンチスト病院	
江戸川病院	三栄会ツカザキ病院	
関東中央病院	製鉄記念広畑病院	
榊原記念病院	高清水高井病院	
聖路加国際病院心臓血管センター	健生会土庫病院	
虎の門病院	誠佑記念病院	
武蔵野赤十字病院	公立那賀病院	
東大和病院	しげい病院	
小田原循環器病院	東広島医療センター	
国際親善総合病院	済生会広島病院	
横浜栄共済病院	福山循環器病院	
済生会横浜市南部病院	県立広島病院	
新潟県立がんセンター新潟病院	岩国医療センター	

医師会賛助会員

日本医師会
群馬県医師会
埼玉県医師会
東京都医師会
太田市医師会
沼田利根医師会
藤岡多野医師会
前橋市医師会
上尾市医師会
さいたま市野野医師会
狭山市医師会
本市市児玉郡医師会
葛飾区医師会

当財団をご支援くださる方

賛助会員として本年度にご支援いただいた方々のご芳名を掲載させていただきました。

(2017年6月～8月)

阿古 潤哉 様	小 川 勝 様	倉 林 正 彦 様	須 磨 幸 蔵 様	西 川 章 様	村 田 和 彦 様
足 達 寿 様	荻 野 和 郎 様	栗 原 敏 様	住 吉 昭 信 様	乳 井 裕 子 様	村 山 正 博 様
新 博 次 様	小 澤 利 男 様	小 口 朝 彦 様	千 田 彰 一 様	丹 羽 明 博 様	望 月 茂 様
石 橋 俊 様	小 野 高 史 様	小 洪 敬 治 様	高 木 哲 人 様	橋 場 邦 武 様	百 瀬 満 様
和 泉 徹 様	小 野 稔 様	後 藤 京 子 様	高 本 眞 一 様	橋 本 敬 太 郎 様	門 間 和 夫 様
磯 部 光 章 様	尾 前 照 雄 様	後 藤 紘 司 様	高 安 徹 雄 様	長 谷 部 直 幸 様	矢 崎 義 雄 様
市 川 悦 様	片 見 初 江 様	小 林 祥 泰 様	高 柳 寛 様	羽 田 勝 征 様	安 井 健 二 様
市 田 露 子 様	加 藤 正 明 様	小 柳 仁 様	武 田 信 彬 様	濱 正 孝 様	矢 永 尚 士 様
伊 藤 隆 之 様	金 丸 憲 司 様	近 藤 高 明 様	田 中 元 直 様	林 輝 美 様	山 下 武 志 様
伊 藤 貞 嘉 様	金 古 善 明 様	坂 田 泰 史 様	谷 山 佳 弘 様	平 田 健 一 様	山 科 章 様
伊 藤 正 明 様	加 納 達 二 様	坂 本 知 浩 様	塚 本 宏 様	平 田 恭 信 様	山 村 憲 様
井 上 博 様	河 合 忠 一 様	坂 本 三 哉 様	辻 幸 臣 様	日 和 田 邦 男 様	山 本 章 様
今 村 聡 様	川 井 和 哉 様	篠 山 重 威 様	堤 健 様	藤 原 久 義 様	家 森 幸 男 様
上 島 弘 嗣 様	川 崎 雅 規 様	佐 田 政 隆 様	鄭 忠 和 様	堀 正 二 様	弓 削 浩 様
浦 信 行 様	河 村 慧 四 郎 様	佐 藤 修 様	道 場 信 孝 様	前 村 浩 二 様	横 倉 義 武 様
遠 藤 政 夫 様	上 松 瀬 勝 男 様	佐 藤 和 徳 様	外 山 淳 治 様	松 尾 裕 英 様	吉 松 秀 明 様
大 川 眞 一 郎 様	北 畠 顕 様	猿 田 享 男 様	永 井 良 三 様	松 岡 博 昭 様	渡 邊 英 一 様
大 島 文 雄 様	木 之 下 正 彦 様	島 田 和 幸 様	長 澤 一 成 様	松 崎 益 徳 様	(五十音順)
大 和 田 憲 司 様	木 村 彰 方 様	下 川 宏 明 様	中 田 八 洲 郎 様	松 永 正 人 様	他 匿 名 10 名
岡 島 光 治 様	木 村 剛 様	庄 田 隆 様	中 野 赴 様	水 重 克 文 様	
岡 田 幾 太 郎 様	楠 岡 英 雄 様	杉 澤 和 美 様	中 原 容 様	三 田 村 秀 雄 様	
緒 方 松 柏 様	楠 川 禮 造 様	杉 本 恒 明 様	中 村 直 樹 様	皆 越 眞 一 様	
小 川 聡 様	久 保 田 徹 様	杉 薫 様	中 村 眞 潮 様	宮 垣 武 司 様	

当財団へご寄附をいただいた方

次の方々からご寄附を賜りました。ここに厚く感謝申しあげご芳名を掲載させていただきました。

(2017年6月～8月)

大 嶋 晃 太 様	嶋 田 裕 様	昌 川 ゆ み 様
高 橋 靖 様	竹 下 和 子 様	田 中 宏 様
野 村 和 子 様	長 谷 川 章 様	花 澤 曜 聿 様
福 田 扶 佐 子 様	前 田 拓 也 様	松 坂 忠 則 様
村 上 勝 彦 様	守 口 一 恵 様	山 本 和 子 様
他 匿 名 3 名		

■セカンドオピニオンへのご寄附

杉野 千恵子 様
他 匿名1名

■小さなハートをつなぐ基金

井岡 敏夫 様 福原 卓也 様

■健康ハートの日へのご寄附

ACIST Japan株式会社 様

ご寄附のお願い

日本心臓財団は、循環器病を克服するため、研究助成、予防啓発、さらに循環器病に関する皆様からのメール相談などを行っております。

今後もこのような活動を継続させていただけますよう、皆様からのご支援をお待ち申し上げます。何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

当財団は公益財団法人の認定を受けておりますので、当財団へのご寄附は税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられます。

また、税額控除に係る証明を取得しておりますので、個人の方からのご寄附につきましては所得税控除と税額控除のいずれか一方を選択いただくことができます。

■三井住友銀行 丸ノ内支店

普通 0801474

■三菱東京UFJ銀行 丸の内支店

普通 4025878

■ゆうちょ銀行

一般振替口座 00140-3-173597

(ゆうちょ銀行〇一九(ゼロイチキュウ)店

当座 0173597)

口座名：公益財団法人 日本心臓財団

ザイ) ニホンシンゾウザイダン